

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名 水口 真理子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

臨床免疫学や臨床免疫学実習を主に担当している。免疫はヒトの生体内において、様々な疾患と密接に関連している。教育活動は、生体内での自己および非自己を区別する仕組みや、免疫が破綻することで引き起こされる疾患の仕組みを理解できる講義および実習を目指して行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
免疫学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	2	116
免疫学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	90
臨床免疫学	臨床検査技術学科	必修	3	92
免疫学実習	臨床検査技術学科	必修	3	87
臨床免疫学実習	臨床検査技術学科	必修	3	88
卒業論文	臨床検査技術学科	選択		18
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	78

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

臨床検査技術学科は、臨床検査技師国家試験の合格を目指す。学ぶべき内容は、生命現象・疾患の成り立ちから、疾患に対する検査方法まで多岐に渡り、膨大である。大学の4年間という限られた時間の中で、自分なりの学修の仕方を身に付け、国家試験合格へ向けて粘り強く学びを積み重ねることができる人を育成したいと考えている。さらに、社会人となっても継続して学び続ける人となってほしい。また将来、臨床検査技師としてチーム医療の一員となるために、相手の立場を理解し、思いやりを持って行動できる人材を育成したい。

そのために臨床免疫学の講義や実習では、学生の興味や好奇心を刺激し、自ら学びを進めることの助けとなる資料や教材の作成に努めている。実習では、グループワークを通じて、他の班員と共同して実験を行い、実験結果について討論することにより、学生がコミュニケーション能力と科学的な洞察力を身につけることを目指している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・過去10年間の臨床検査技師国家試験の出題傾向を念頭に置き、重要なポイントをおさえた講義スライドを作成し、講義を行っている。また、スライドや資料は、講義内容を具体的にイメージしやすいよう、図表を豊富に用いている。講義後は、学生と会話しながら講義の分かりやすさやスライドの見やすさを確認し、教材を改善している。
- ・講義の終盤は、過去の国家試験問題を用いて確認テストを実施し、その後解説を行う。これにより、重要なポイントを改めて再確認し、知識の定着を図る。
- ・座学で学んだ専門知識と検査技術を体系的に理解できるように、実際に種々の検査法を実習している。その際、疾患の背景・検査方法・原理・検査の判定法をまとめた実習書を作成した。学生が実習書を見ながら、実験の背景を理解し、主体的に操作を行うための環境を整えている。
- ・専門知識と検査技術を結びつけ、理解を深めるためのワークシートを作成した。このワークを行うことにより、結果・結論および考察を論理的かつ簡潔にレポートとしてまとめる文章力とスキルを学生が身につけることをサポートする。このことは、臨床検査により得られる情報と疾患との関連性を正確に把握できる臨床検査技師の育成にもつながると考えている。
- ・実習中は、学生と対話しながら進行している。理解が不十分であると感じた部分は、実習中に参加者全員で共有し、確認・復習を行っている。
- ・実習はグループワークを行っている。班内でコミュニケーションを図ることで協調性を育む。
- ・全体を通して、答えを提示するのではなく、学生が自ら考え、調べるよう促す教材作りや助言を心がけている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習はグループワークを採用している。学生が主体的に、また他の学生と協調的に活動できるように促している。

(2) ICTの教育活用

有

講義の終盤には、学んだ知識を定着させるために、学習管理システム「學理」を用いて確認テストを行っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

過去の臨床検査技師国家試験の出題傾向を念頭に置き、重要なポイントをおさえた講義スライドを作成し、講義を行っている。座学で学んだ専門知識と検査技術を体系的に理解できるように、疾患の背景・検査方法・原理・検査の判定法をまとめた実習書を作成し、それに沿って実習を行っている。

（２）学生の理解度の把握

B

講義や実習の終了後に、講義スライドは分かりやすいか、また、理解することが難しい内容など、学生と対話しながら理解度の把握に努めた。しかし全ての学生とコミュニケーションをとれてはいないので、今後は全体を把握できるように努める。

（３）学生の自学自習を促す工夫

A

専門知識と検査技術を結びつけ、理解を深めるために実習書とワークシートを作成した。学生が検査の原理やその応用を自学自習できるよう、考えさせる問いを設定した。

（４）学生とのコミュニケーション

A

講義の後や実習中に、分からないことがあればすぐに質問するように促し、対応した。また、学生が質問しやすい雰囲気作りに努めた。

（５）双方向授業への工夫

A

実習は、双方向授業の形式を採用した。実習内容の背景、細かい手順、および結果の解釈をわかりやすく記載した実習書と、実習の原理や解釈の理解を深めるためのワークシートを作成した。これらを基にして、教員と学生が双方向のコミュニケーションを取りながら実習を進めた。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

臨床免疫学（M3）では、定期試験でオリジナルの国家試験類似問題を作成し、問題の傾向を把握できるようにしている。総合臨床検査学演習（M4）にて、臨床免疫学の過去の国家試験問題、模擬試験およびオリジナル問題の解説に取り組んだ。問われている知識の基礎や背景を含めた解説スライドを作成し、學理に揭示している。学生からの質問には、その都度対応した。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学生の成績向上を目的として、教科書を使わず、自分で重要なポイントをまとめたスライドで講義を行った。専門知識と検査技術を結びつけ、理解を深めるために、実習書とワークシートを作成した。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

「講義スライドは、国家試験問題における重要なポイントがおさえられている」、「実習書がわかりやすい」、「国家試験問題の解き方が分かった」と、学生より評価を受けた。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研修へ積極的に参加した。参加できなかった場合は、録画を視聴した。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

今後は、Project Based Learning（PBL）を実施し、チームで課題に取り組む。受身の講義ではなく、学生が自ら問題を見つけ、解決する過程をプレゼンテーションで発表する機会を設ける。課題を整理し、誰にでも分かりやすく伝えられる発表スキルを習得できるような取り組みを進めていきたい。長期目標は、学生が主体的に考え、相手の立場を理解し、思いやりを持って行動することを習慣化できる教育環境を構築することである。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、講義スライド、実習書、ワークシート、確認テスト